

# 自然教育園におけるフクロウ・リュウキュウサンショウクイの 初記録について

川内 博\*

都市鳥研究会

**Hiroshi Kawachi: About the first record of Ural Owl and Ryukyu Minivet in the Institute for Nature Study. Miscellaneous Reports of the Institute for Nature Study (53): 65–66, 2021.**

Urban-Bird Society of Japan

## はじめに

令和2年度の園内での鳥類調査において、『自然教育園動物目録』（自然教育園，2007）に記載のない2種類の生息を確認したので報告する。

### 1. フクロウ *Strix uralensis* Ural Owl

東京におけるフクロウは、おもに多摩地区～奥多摩地区の森林地帯で留鳥として生息しているが、東京都心部でも通過個体などが見られることがある（吉邨，2011）。今回、岡田朋子氏からの④・⑥の情報をきっかけに、オオタカの営巣状況を調べている園職員の遠藤拓洋氏から③・⑤の情報の提供があり、その際、本種が目録未記載であることに気づいた。そこで他に記録がないか調べたところ、4年前に①の目撃・撮影記録があり、2018年にも②の記録があることがわかった。現時点の調べでは①の記録が本園初記録となる。

ところで、現在都内のある緑地で番いのフクロウが長期間生息しているのを調べている。本園は同じような環境条件なので、本園での生息に注意して調べる必要がある。

- ① 2017年2月18日1羽 おろちの松付近にて（観察・写真） 上間 匡氏
- ② 2018年12月11日 館跡付近（鳴声・録音） 大澤 陽一郎氏

③ 2020年4月24日1羽 実験畑（録画） 遠藤拓洋氏〔※〕

④ 2020年6月2日 森の小道の湿地奥（鳴声） 岡田朋子氏

⑤ 2020年12月4日1羽 実験畑（録画） 遠藤拓洋氏〔※〕

⑥ 2021年2月9日1羽 森の小道（観察・写真） 岡田朋子氏（写真1）

岡田氏から同年3月14・19・27日にも同じ場所で声を聞いたとの報告がある。

※この件については、本誌22ページに記載がある。



写真1. フクロウ（岡田朋子氏撮影）

\*E-mail: hkawachi@Jcom.zaq.ne.jp



写真2. リュウキュウサンショウクイ (著者撮影)

## 2. リュウキュウサンショウクイ

*Pericrocotus divaricatus tegimae* Ryukyu Minivet

- ① 2018年11月13日2羽 水生植物園 (観察・写真)  
川内 博 (写真2)
- ② 2020年11月10日1羽 水生植物園 (目撃・声)  
川内 博

本種とは別亜種のサンショウクイ *P. d. divaricatus* は、

従来から夏鳥として記録され、本園でも目録に記載されている。しかし、リュウキュウサンショウクイは、南部九州から沖縄に留鳥として生息する亜種で、近年その分布が北上していることが知られている (三上・植田, 2011)。東京でも2017年1月に都立野川公園で初めて観察・撮影されている (大室, 2018)。

情報・写真を提供された方・情報収集に関わられた方にお礼を申し上げたい。

## 引用文献

- 国立科学博物館附属自然教育園編, 2007. 自然教育園動物目録. 東京.
- 三上かつら・植田睦之, 2011. 西日本におけるリュウキュウサンショウクイの分布拡大. BirdResearch (7) 33-44. 東京.
- 大室 清, 2018. 東京にも姿を現したリュウキュウサンショウクイ. ユリカモメ (749) : 1-2. 東京.
- 吉邨隆資, 2011. 中野区・哲学堂公園. ユリカモメ (663) 18. 東京.